

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2774501155		
法人名	もみの木有限会社		
事業所名	もみの木のいえ		
所在地	大阪府泉佐野市羽倉崎3-8-5		
自己評価作成日	平成 24年 10月 26日	評価結果市町村受理日	平成 24年 12月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=2774501155-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 11月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もみの木のいえでは、利用者様にできるだけ快適に過ごしていただけるように考え、本当に家で過ごしているような雰囲気作りができるように努めています。利用者様の中には怒っている方や、言い争いをされる方もおられますが、それらも含めて皆様活気のある生活を送っていただけていると思います。その活気のある生活からたくさんの笑顔も生まれていると思います。その利用者様の笑顔を見ていただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の福祉に役立てたいとの思いで、代表者の自宅を提供・改造して運営しているグループホームです。家庭的な雰囲気を大切に、利用者一人ひとりの想いを尊重し、柔軟な対応で自由な暮らしを支援しています。「明るく・楽しく・元氣よく」の理念のもと、利用者の笑顔に誇りを持ち、日々の支援にあたっています。計画作成担当者の交替や職員体制の改革を行い、代表をはじめ職員が一丸となって利用者本位のサービスに向かう体制が整い、これからに期待できるグループホームです。冬でも青々と茂っている温かみのある木から名付けられた「もみの木のいえ」は、その名のように温かい雰囲気が伝わるグループホームでもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の「明るく・楽しく・元気よく」の理念を元に、新たな理念作りに着手しましたが、諸事情により中断しています。今後できるだけ早期に新しいもみの木のいえの理念を作成したいと思います。	「明るく・楽しく・元気よく」の理念のもと、利用者の笑顔を誇りに、代表・職員が一丸となって暮らしを支えています。地域密着型サービスの意義や役割をふまえた新たな理念作りに取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義をふまえた新しい理念ができ上がり、今後は、利用者・家族・地域にも理解が得られるよう実践することが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域へのイベントに参加させていただいたり、こちらが主催のイベントに参加していただいたりと、相互に交流を続けています。	地元の夏祭りやだんじり、敬老イベント等、地域のイベントへは積極的に参加しています。ホームの納涼祭には、地域住民に大勢参加してもらいました。年末にはホームでの餅つきを予定し、地域の方にも参加してもらいます。今年度は熱中症対策として、事務所の前に地域の方々にも自由に飲んでもらうお茶を用意しました。認知症の相談に来訪する住民もいます。地区福祉委員会主催のふれあいの集いで、認知症サポーター養成講座の講師も務めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師をさせていただき、地域の方々へ認知症についての知識を広めていく活動をお手伝いさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス体制の変更などについてご家族様からの意見を聞かせていただき、よりよいサービスを提供させていただけるように努めています。	町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者等の参加で2ヵ月毎に開催しています。会議では、ホームの運営状況や行事の報告を行います。家族の意見を地域の方に知ってもらう機会ともなっています。会議の際、地域で開催されるイベントを教えてもらい、利用者も参加し、楽しむことができました。	会議で出た貴重な意見は、議事録に残して職員間で共有し、サービス向上に活かしてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新たなサービスの実施についての問い合わせなどこちらの意見や要望があれば随時連絡させていただき、また市からの依頼や要請についても適宜対応しています。	市の担当者とは、相談や情報交換ができる関係を築いています。代表は、地域密着型サービス事業者連絡会の役員を務め、合同イベントや研修を実施しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対して研修や会議などを通じて、繰り返し身体拘束についての知識を伝えるようにしています。そこでいろんなケースが身体拘束となり得るということを知ってもらい、職員自らが身体拘束となるような行為をしないように心がけてもらうように努めている。	身体拘束に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアを確認しています。他施設で起きた虐待について、職員間で検討する機会を持ちました。玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か？を会議や資料を配布することによって職員に伝えて、虐待について理解できるように取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が理解している権利擁護などの知識を全ての職員に伝えることはできていませんが、生活保護などの制度も含めて、機会があればこれらの制度についての仕組みを伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の改定などの際には、事前にご家族様に話をお伺いするなどして、意見を参考にさせていただくように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>具体的に時間などを決めて意見をいただく機会を設けることはできていませんが、随時管理者に連絡をとれる体制を整えています。また運営推進会議を通じていただいたご家族様の意見は参考にさせていただいています。</p>	<p>家族の面会時には、その都度声かけ等を行い、意見や要望を聞いています。3ヵ月毎に、利用者の暮らしぶりがわかる写真入りの「ぎ・もみの木」通信を家族に送付しています。利用者毎に職員の担当が決まり、今後は担当からのメッセージも添えていく予定です。家族からの意見は真摯に受け止め、職員の接遇に対しての意見は、ケアの改善に活かすことができました。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフリーダーおよびサブリーダーを設置し、より職員の意見を集約できるようになりました。また研修や面談を通じて職員それぞれの意見や思いを聞き、より円滑に運営ができるように努めています。</p>	<p>リーダー・サブリーダーを設け、職員が意見を表出しやすい体制にしました。日常的に連絡帳やコミュニケーションを密にし、気づきや情報の共有を図っています。利用者が安心して入浴できる椅子や、カラオケ喫茶への外出の提案等、職員からの自由な発信でサービスを向上させています。夜勤の不安を軽減するため、夜勤2名体制を始めました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフリーダーやサブリーダーを現場に配置したり、夜勤者を1名加えるなど、人員配置を手厚くすることにより、職員一人一人の負担を軽減し、より良いサービスを提供させていただけるような職場づくりを目指しています。また就業規則の変更などにも取り組み、職員がやりがいをもって働けるように努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員に認知症サポーター養成講座受講、社内研修、外部研修への参加など、できるだけ多くの知識や技術を習得できるような機会を提供するように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>泉佐野市地域密着型サービス事業所連絡協議会の活動への積極的な参加や他の事業所との相互研修を行うことにより交流を深めています。また全国各地で開催されるセミナーなどを通じて知り合った事業所の方々と交流させていただき、そこから得た様々な情報を取り入れられるように努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お申込みを頂いた時点で、ご本人様のお話を伺い、まずこちらのことを信頼していただけるように、じっくりとお話させていただくように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様の現状を聞かせサービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様との面談や、2泊3日の体験入居などを通じて、こちらで対応させていただける範囲を伝え、対応できない場合においても、できるだけ多くの資料を準備して、より適切なサービスを選択していただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、買い物に行ったりと、できるだけ職員と利用者様という区別のないように過ごすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からお電話を頂いた際には、ご本人様の近況をお伝えしたり、ご来訪された場合には、ご家族様とお話をさせていただいた上で、ご要望をお聞きするように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお知り合いの方など、どなたでもいつでもお越しいただけるようにしています。	職員は、馴染みの人が自由にきてもらえる雰囲気づくりに心がけています。教師だった利用者のもとには、教え子たちが頻りに訪問します。お寺参りやかかりつけの歯科受診の帰りに、近所の家に寄ってくる人等、馴染みの関係支援を行っています。また、疎遠になっていた姉妹に、突然「手紙を書く」と言って自身で書いたことがきっかけで、その後も電話等で関係が継続するよう支援しています。職員は、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せる大切さを、利用者の行動から学んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれがもみの木のいえの中でどこかに居場所が見つけれられるように努め、そこから皆さんが共有できる空間も見つけていただき、お互いに関わりあっていただけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、お電話やお手紙などでご本人様やご家族様の近況をお伺いし、いつでも気軽にご連絡いただけるようにお話をさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様それぞれに担当者を配置し、ご本人の希望を叶えられるように努めています。ただし計画作成担当者の変更が多く、適切なアセスメントが行えていません。現在独自のアセスメントシートを作成しています。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握することを目的に、担当者はホーム独自のアセスメントシートを活用して、多くの情報を得たうえでフェイスシート作りを行っています。情報は誕生日毎に見直しています。利用者の中には。馴染みの寺に来てもらい、自室の仏壇で盆法要をされる方もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からお話を伺い、今までどのような生活を送られてきたのかを把握し、それをもみの木のいえでどのように続けていただけるかを考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、様々な作業を行っていただき、ご本人が何をできるかを把握するように努めています。また職員それぞれが利用者様と関わることによって、心身の状態の変化を把握できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者の度重なる交代により、適切なケアマネジメントができていないのが現状です。現在新任の計画作成担当者の下で、関係者全員の意見が反映できるような介護計画の作成を目指しています。</p>	<p>介護計画については現在、利用者の家族・それぞれの担当職員と在宅医療の医師や訪問看護師の意見も聴取し、チームで介護計画が作成できるよう、基盤作りを行っています。職員に介護計画の意義や流れを理解してもらうことを目的に、計画作成担当者が勉強会を実施して、意識の共有に努めています。</p>	<p>これまでの課題であった介護計画が、積極的に動き始めています。利用者・家族の思いや要望を計画に反映させ、ケアの実践に繋がるのが期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状況について記録し、それを全職員が確認している。それらの情報を元に職員同士で話し合いながら、課題が見つければ再検討し、良いことは続けられるように努めています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族様の希望もあり看取りにも対応させていただくことになりました。それを踏まえ提携する医療機関の変更、訪問看護ステーションとの連携、夜勤二人体制など、様々な取り組みができるような体制づくりをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や社会福祉協議会などと連携し、金銭管理が難しい利用者様には権利擁護の制度を活用させていただいています。また歩道や公園など、整備された散歩コースが充実していて、外出も楽しんでいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関を変更し、今まで以上に身近に医療サービスを受けることが可能になりました。またその医療機関の協力により、看取りにも対応させていただくことができました。	入居前からかかりつけの医療機関へ、引きつづき受診している利用者もいます。家族の付き添いが無理な時は、職員が通院の付き添いを行っています。ホームの協力医による往診は2週間に1回あり、他に眼科、歯科の往診があります。週2回訪問看護サービスを受けています。24時間医療との連携がとれる体制が整い、利用者・家族・職員は安心して過ごしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との提携により、週2回看護師による訪問看護を受けています。訪問時に異常があれば、看護師より医療機関に連絡していただき、適切な処置を素早くしていただけるようになりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時から、ご家族様と共に入院先の病院関係者との情報交換を行い、退院する場合の受け入れ態勢などを伝え、できるだけ早期に退院していただけるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをさせていただける体制を整えることができるようになり、ご家族様と医療機関などと一つの場所に集まり話し合う機会を設けています。また職員に対しては終末期に向けての対応などについて、研修や学ぶ機会を設けて、全員で取り組んでいけるような体制作りを検討しています。	利用者が重度化した場合及び看取り介護における指針を作成し、家族に説明しています。家族からの要望により、看取りの実施に向けて体制を整えました。看取りケアを見込んで夜勤2名体制にしています。今後は、研修や話し合いを重ね、利用者・家族・職員が安心して取り組める看取りを目指していく予定です。	今後は、看取りに関する学習・介護技術の研修を重ね、創意工夫をしたマニュアルを作成し、看取りのケアを実現することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の体調の急変時や事故発生時には、提携医療機関への連絡し、医師の指示に従って行動するようにしています。また急変時対応マニュアルも設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の火災避難訓練を計画実施しています。また地域の防災訓練にも参加させていただいています。	年2回の避難訓練を実施し、うち1回は消防署の指導のもとで行っています。津波の防災訓練にも参加しました。今年3月にはスプリンクラーの設置もしています。非常災害時の食料品の備蓄も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には利用者様がどのような思いで日々を過ごされているのか？を考えて関わるように指導しています。そこからお互いが尊重し合えるように関わることにより、なじみの関係を築くことができるようになると指導しています。	利用者の尊厳に配慮した声かけを心がけています。利用者が介護を拒否したり、怒ったりした際は、何かを傷つけたのだと、職員間で検討し、ケアを振り返るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声に出して希望を表してくださる利用者様にはその声をお聞きし、言葉で上手く伝えることができない利用者様にはその表情やしぐさなどを感じて、希望に応えられるように支援できるように指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事はできるだけ利用者様の機能に沿って準備させてもらっています。特に朝食については起床された時間に合わせて準備させてもらっています。また入浴についても本人の希望があればその都度対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お買い物に出かけたときには、ご本人様の気に入った衣服を選んでいただいています。またお化粧品をして楽しんでいただいたりしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食事が準備された場合には、その方が食べていただけるものを準備しています。また調理や片づけなども利用者様に積極的に行っていただいています。	昼食の献立は1週間分程作っていますが、夕食はその日、利用者からの希望を聞きながら作っています。利用者も調理に参加しています。リビングのテーブルでは職員と談笑しながら、料理の下処理や準備を行い、みんなで食事作りに参加する楽しみを味わっています。カウンターキッチンからは、食事の準備の匂いや音が聞こえてきます。介助の必要な方には、利用者の食事のペースに合わせて介助しています。朝食は、6～9時ごろまで好きな時間に好みの食事を食べていただけるよう、配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量については、概ね全ての利用者様について記録しています。栄養バランスについては、不定期ですが医師や看護師に相談し指示をいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを促したり、義歯の洗浄について支援させていただいています。また口腔ケアの介助が必要な方に対しては、職員により口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に排泄をオムツでされていた利用者様に対し、ご本人様の希望もあり、トイレで排泄できるように支援させていただき、その結果日中はトイレで排泄されるようになりました。	職員間でわかりやすい排泄表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。排泄介助も統一した方法でできるように、介護技術を学び合っています。4年ぶりにトイレで排便ができた利用者のことを皆で喜びあい、更に排泄の自立について大切さを学びました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師、計画作成担当者の指示を仰ぎながら、水分摂取や座位の保持などに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望されたときに入っていたできるように支援しています。また仲の良い利用者様同士と一緒に入浴していただいたりして、入浴を楽しんでいただいています。	浴室は、明るく広くゆったりしています。週に2～3回、利用者の希望に沿って入浴しています。入浴技術の向上を目的として、リーダーが入浴研修に参加しました。職員に介助技術を学んでもらい、利用者を楽しみとしての入浴が提供できるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や夜間に関わらず、ご本人が休息されたいときにはご自由にお部屋で休んでいただいています。また、介助が必要な方に対しても、その時々において表情を確認し、お部屋で休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明ファイルを作成し、利用者様それぞれがどのような薬を服用されているかをすぐに確認できるようにしています。また状態の変化があれば、すぐに医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体調や状態を踏まえ、家事、散歩、買い物、外食など可能な限り楽しく過ごしていただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望された場合には、状況に応じて可能な限り支援させていただいています。お買い物や寺社参拝、自然観賞、カラオケ喫茶など、できるだけ多く外出していただけるように検討しています。	利用者との会話の中から行きたい場所が出てきたら、柔軟に対応して実現させています。夏には、「ホテルが見たい」という利用者の思いを実現させました。公園や買い物、カラオケ喫茶、犬の散歩等外出の機会を積極的に作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて、こちらで管理させていただいているお金をお渡ししています。そのお金でお買い物に行っていただくように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	お手紙を希望された場合には便箋や封筒を準備しています。自筆で書かれた宛名やお手紙をそのままご家族様に送らせていただきました。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ生活感のある空間になるように配慮しています。利用者様それぞれの立場や状況も踏まえた上で、混乱されないような空間づくりを考えています。	玄関付近のスペースで季節の花や野菜を植えてあり、また犬を飼っている等、親しみやすく訪ねやすい雰囲気です。リビングは玄関から見通せる開放的な作りになっています。テーブルには花が飾られ季節を感じるができます。ソファでくつろぐ利用者の表情は穏やかで、ホーム内は家庭的な落ち着きを感じられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた共有スペースの中でお独りになっていただける居場所は少ないですが、お好きな方と一緒に過ごしていただける空間は作らせていただいていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室には、家具や備品などを自宅から持ってきていただいて、できるだけご自宅で過ごされてきた環境に近い状態を作らせていただくように支援しています。	ベッドと衣装たんすはホームで準備しています。利用者はそれぞれ、整理ダンス、椅子、置物、仏壇、家族の写真等を持ち込み、利用者が安心して過ごせる、落ち着いた部屋になっています。亡くなった家族の遺影を飾り、仏壇には花を供えている部屋を案内する利用者の表情から、職員は利用者一人ひとりの思いを大切にできるケアが伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に利用者様の名前を表示させていただいたり、設置可能な場所に手すりを設置し、可能な限り安全に過ごしていただけるようにしています。		